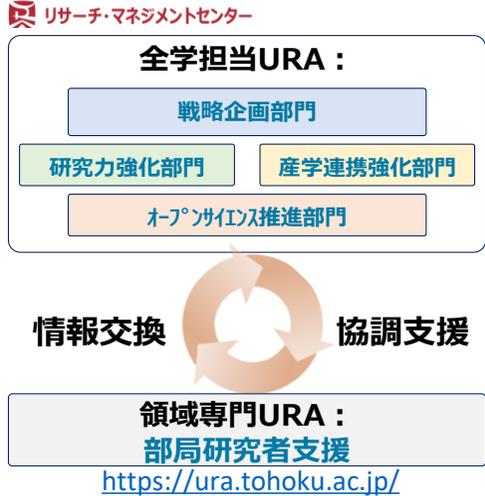


大学名 東北大学

表題 URA活動の全学的研究支援に向けた取り組み

### ■ リサーチ・マネジメントセンターの機能強化

東北大学は、URA制度の定着、URA間の連携強化、研究IR・研究力分析、産学官連携や外部資金獲得などの支援を行ってきた。R5年から、戦略的な支援を実現するため、**URAを一枚岩とする全学組織**として、多様な職能を有するURA群の機動的・有機的連携を可能とするリサーチ・マネジメントセンター



(RMC)を設置した (R5年改組)。また、オープンサイエンス推進部門の新設により、研究データ等学術情報の利活用も加えて支援機能の強化を図っている (R6機能強化)。

### ■ 研究戦略検討を通じて外部資金獲得支援を充実

大学の体制強化計画の研究力向上戦略立案において、RMCは研究IR・研究力分析の役割を担ってきた。その研究力向上戦略に基づいて外部資金獲得支援の充実に取り組んでいる。

・ **大型・部局横断型プロジェクト支援** : 大型、学際的な事業・プログラムの競争的資金獲得について、研究者への情報提供と提案意向調査、事業・プログラム詳細を把握する全学担当URAと関連部局の領域専門URA

とが連携し、部局研究者へのアクセスと提案構想相談や提案書作成支援、といった支援活動が充実してきた。

・ **若手研究者支援** : 外国人研究者や人文社会科学研究者向けの科研費提案支援、JST創発やNEDO若サポ等の提案支援を実施しているほか、論文執筆セミナーを開催している。R6年度にはURAが主導して民間資金（寄附金）を活用して若手研究者の独創的な研究活動をURAが伴走支援する取組を開始した。

以上の活動を通じて、研究者・RMC-URA・事務局が、職位や分野を越えて連携する支援活動を進めている。

### ■ URAの多様な支援スキル育成と連携強化

URAの人材育成とネットワーク強化のため、**URA連携協議会**及び**URAの重点化スキル育成コース**を設置し、H27年度～R5年度まで184件のスキルアップセミナーやURA活動報告を実施してきた。R6年度から「URAに求められる研究支援スキルを考える」として新たに企画し、プロジェクトマネジメント、統合イノベーション戦略、最新の研究動向などを題材に開講している。また、自前の研修プログラムを持たない**他大学等へ一部公開**している。これらにより学内外のURAとの連携強化も目指している。



外部機関への開講プログラム	
5/9	研究開発エコシステムの中でURAが果たす役割
7/4	JSTプロマネ人材育成について
9/5	統合イノベーション戦略
11/7	産学連携の新しい動き
12/5	大学の財務と会計
3/6	連携機関からの報告・意見交換